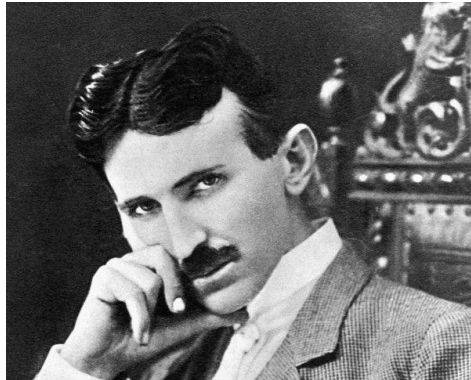


# 『Mind Charging』

第 100 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 8 月 31 日

## ニコラ・テスラの名言



**It may be theirs at present,  
but the future is mine.**

現在は彼らのものかもしれないが、未来は私のものだ。

『世界の発明王』と称されたエジソンと肩を並べるレベルの天才と呼ばれたニコラ・テスラの研究に対する原動力となったのは『ガッツ』だったんだと感じさせるような言葉です。情報や物があふれた現代でも、やはり自分の人生を最終的に豊かにするものは“気持ち”なのではないでしょうか。

期限が決まっていることもあります。人間は生きているうちはずっと成長期であると考えます。まだ見ぬ自分が新たな目標を達成していることを想像しながら日々を大切にしていきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ニコラ・テスラ(セルビア語: Никола Тесла, セルビア語ラテン翻字: Nikola Tesla, 1856 年 7 月 10 日 - 1943 年 1 月 7 日)は、19 世紀中期から 20 世紀中期の電気技師、発明家である。グラーツ工科大学で学んだあと 1881 年にブダペストの電信(電話)会社に入社し技師として勤務。1884 年にアメリカに渡りエディソンのもとで働くが 1 年後独立。1887 年に Tesla Electric Light and Manufacturing を設立。新型の交流電動機を開発・製作、1891 年にはテスラ変圧器(テスラコイル。変圧器の一種だが、きわめて高い電圧を発生させるもので空中放電の(派手な)デモンストレーションの印象で今にいたるまで広く知られているもの)を発明。また回転界磁型の電動機から発電機を作り上げ、1895 年にはそれらの発明をナイアガラの滝発電所からの送電に応用し高電圧を発生させ効率の高い電力輸送を実現させた。(通常の発明家と言うよりは)「天才肌の発明家」である。交流電気方式、無線操縦、蛍光灯などといった現在も使われている技術も多く、また「世界システム」なる全地球的送電システムなどの壮大な構想も提唱した。電気や電磁波を用いる技術(テクノロジー)の歴史を語る上で重要な人物であり、磁束密度の単位「テスラ」にもその名を残しており、LIFE 誌が 1999 年に選んだ「この 1000 年で最も重要な功績を残した世界の人物 100 人」に選ばれている。テスラが遺した技術開発にまつわる資料類はユネスコの記憶遺産にも登録されている。(Wikipedia 参照)